



フードバレーやつしろの取り組み

「フードバレーやつしろ」とは、本市にある豊富な農林水産物や加工品の付加価値を高め、関連産業の集積により、「食」に関連するあらゆる産業の活性化を図ることで、本市の振興・発展につなげる取り組みです。

問合せ フードバレー推進課(本庁仮設庁舎東棟2階) ☎33-8780
Mail food@city.yatsushiro.lg.jp

フードバレーやつしろの3つの柱

- ① 八代港を活用した輸出促進
- ② 国内販路開拓支援
- ③ 6次産業化・農商工連携促進

この3つを取り組みの柱として、専門のアドバイザーと連携を図るとともに、県や関係機関などの協力のもと、生産者や事業者のサポートを行っています。

新たな販路開拓(国内・海外)や商品の開発・ブラッシュアップなどを検討している事業者・生産者の皆さんは、お気軽にご連絡ください。随時訪問し、相談を受けます。

平成28年度における取り組み状況

① 八代港を活用した輸出促進

■ 海外流通の専門家による

巡回アドバイザーを実施

海外展開に関する広い人脈と専門知識を持ったアドバイザーと職員が事業者を訪問し、さまざまな相談のついでに、巡回をきっかけに、海外展開が始まった事業者もいます。



■ 海外展開をサポート

事業者が、海外の展示会や百貨店催事に出展する際に、補助金などのサポートを行っています。

■ 海外バイヤーとのマッチング

台湾やタイからバイヤーを呼び、商談会を開催しています。

商談が成立しなかった場合も、海外のニーズや課題を知ることができます。また、課題解決に向けたフォローアップも行っています。

■ 農産物の輸出

香港の春節(旧正月)の贈答用として、「晚白柚」約2000個を八代港から輸出しました。また、生産日本一の「トマト」も香港やタイなどに輸出し、現地の飲食店などで提供されています。

■ 台湾基隆市での

県南フードバレーフェアの開催

2月18日(土)と19日(日)に台湾の基隆市ケイリンで県南フードバレーフェアを開催し、「観光物産展」「八代産産を使用した和空間のおもてなし」「くまモンステージ」などを行いました。

②国内販路開拓支援

■販路開拓をサポート

国内における販路開拓を検討している生産者・事業者を随時訪問しています。農林水産物や加工品の種類・量を把握し、希望に沿った販路の紹介を行っています。

■農林水産物のマッチング

国内の大手食品メーカーからスーパーなどの小売店まで幅広く、八代産農林水産物の提案を行っています。青果としての販路や加工品などの材料としての販路を開拓し、市内の生産者・事業者とのマッチングを行っています。

《実績の一例》

・関西のパン製造・販売会社へ提案した野菜ペーストがプリン・マドレーヌの材料として採用。

・全国展開のケーキ店へ提案した農産物数種が、ケーキやカフェのドリンクメニューとして採用。



▶採用された「いちじくのタルト」

■加工品のマッチング

市内事業者が製造する加工品を、卸業者や商社、飲食店などへ提案しています。店舗でそのまま販売される商品や、再加工されて新たな商品になるものなど、販路先のニーズに応じたマッチングを行っています。

《実績の一例》

・関東の貿易商社へ提案した加工品が、都内飲食店のメニューで使用。

■八代産農林水産物等PR事業補助金

展示会や商談会、百貨店などの催事に出展する際に係る旅費などの経費について、補助(1/2、限度額50万円)を行いました。

平成28年度は、15事業者(個人生産者3人を含む)がこの補助金を利用し、国内外における販路開拓に取り組みました。

③6次産業化・農商工連携促進

■事業者のサポート

平成27年度より、6次産業化推進アドバイザーに依頼し事業を推進しています。

平成28年度は、「新商品開発5品目」を目標に、6次産業化などに興味のある事業者を訪問しています。また、アドバイザーによる商品開発セミナーや商品開発などに関する個別相談会を実施しました。

現在、13事業者に対して、訪問・相談対応・支援などを繰り返しながら、目標を上回る商品開発ができる予定となっています。

6次産業化・農商工連携促進の実績紹介

平成27年度の実績の一例として、「八代青のりめんべい」を紹介します。

「八代青のり」に関して、八代漁協からパッケージや価格を変更したい旨の相談を受けましたが、生産者の高齢化や後継者不足、売れるかどうか心配などの不安を抱いているという背景がありました。

そのため、まずは、あまり認知されていない「八代青のり」の周知・PRを目的に、アドバイザーと縁のあった福岡の明太子せんべいの会社に依頼し、市水産林務課とも連携して、生産者の理解を得ながら「八代青のりめんべい」が誕生しました。

パッケージもユネスコ無形文化遺産登録を見越して、市文化振興課の協力を得ながら八代妙見祭の亀蛇と笠鉦をデザイン。「八代の代表的なお土産」として定着させ、県外の人にも「八代青のり」の周知・PRを行うこととしました。

現在、この「八代青のりめんべい」は、ほぼ八代地域だけで販売している状態ですが、

毎月、1000箱のペースで売り上げています。平成29年は、原料の青のりを昨年の約10倍の納品を目指し、駅の売店や福岡などの県外でも販売する予定です。

また、当初の目的でもあった「青のり」のパッケージも変更し、「青のりめんべい」と併せて県外に販売することで、少しでも地域へ貢献できればと考えています。



▲八代青のりを使った「八代青のりめんべい」

※6次産業化とは・・・農林水産業者が生産(1次)、加工(2次)、販売(3次)まで一体的に取り組んだり、2次、3次業者と連携して新商品やサービスを生み出したりすること。